



特集 | 医療安全教育 カリキュラム改正をにらんで

教育と臨床の乖離を埋めることを意図してカリキュラム改正がされようとしている。

そのなかで強調された医療安全。このテーマは弊誌では早くから幾度となく特集を組んできた。

今月号は、医療安全教育の第一人者たちによる最も新しい知見と提案である。

わが国の医療安全に関する初めての教科書『系統看護学講座 別巻 16 医療安全』『医療安全ワークブック』（ともに医学書院）の著者である川村治子氏の論文を筆頭に、安全管理の視点でつくった教育プログラムの紹介、国家試験問題を手がかりとした教え方、総合実習の取り組みについて、いずれも力強い論文である。

医療安全教育の第一歩は、学生に「看護業務や看護技術に潜む危険要因を認識させ、必要な不安を明瞭・適切にもたせて看護行為を行わせること」という指摘は、急性期医療の現場に卒業生を送りださなければならない教員にとって耳を傾けなければならないことであろう。

“新カリキュラムを追って”も併せてお読みください。